

# 「SOSの出し方に関する教育」 モデル授業の検証結果について

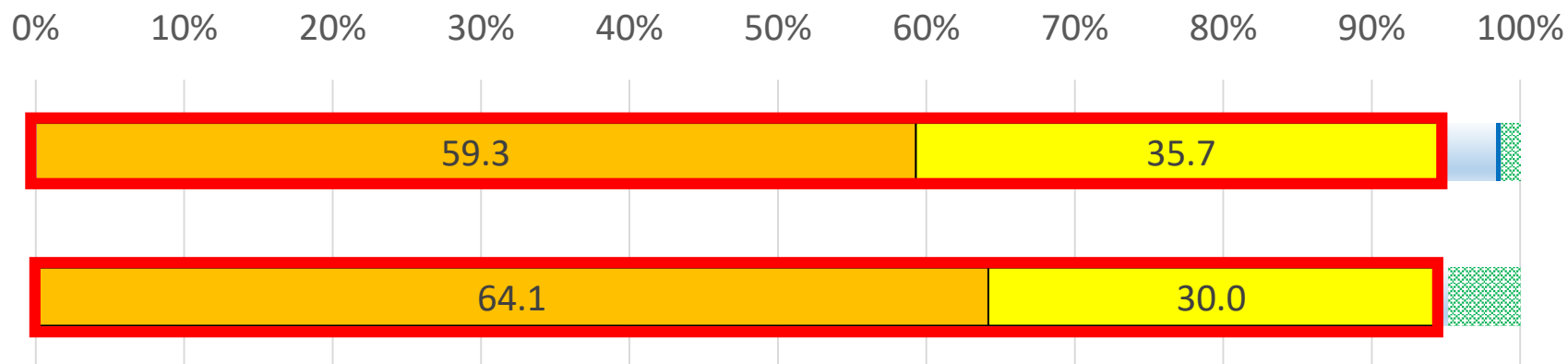


長野県健康福祉部  
長野県教育委員会

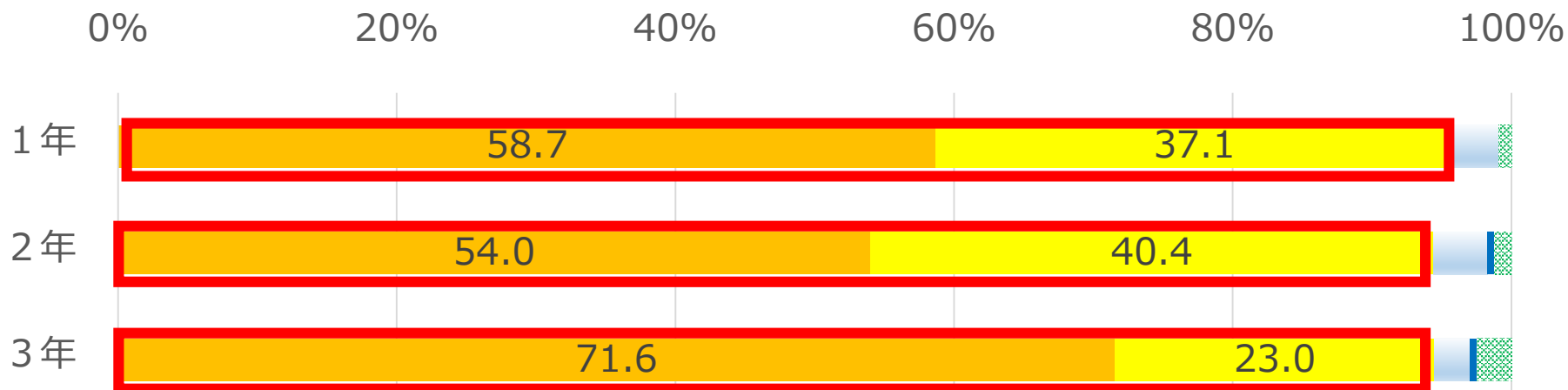
# 資料・説明の分かりやすさ

## 生徒アンケート結果

- 95%前後の生徒が、資料も説明も分かりやすいと感じている。
- 資料の分かりやすさについて、学年による差はあまりない。



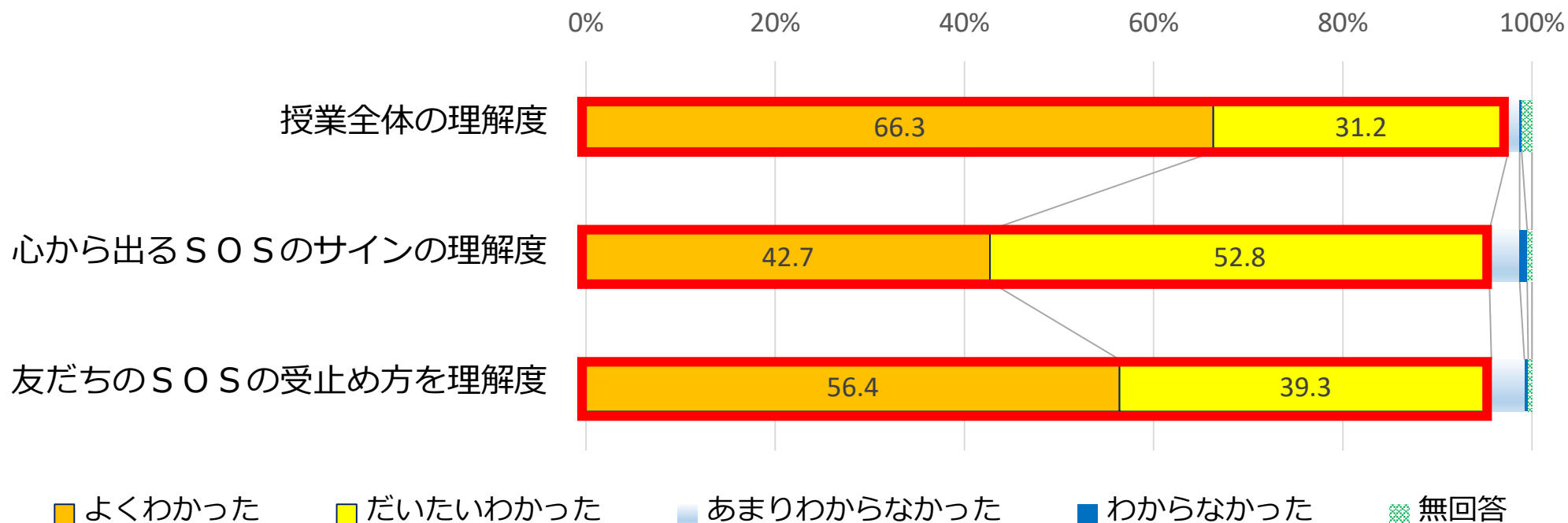
### ◆ 資料の分かりやすさ (学年別)



■ とてもわかりやすい ■ わかりやすい ■ 少しわかりにくい ■ わかりにくい ■ 無回答

- 95%以上の生徒が授業を理解できたと感じている。
- 内容によって、「よく理解できた」割合は異なる。

（注）「心から出るSOSのサイン」などは丁寧な説明が必要

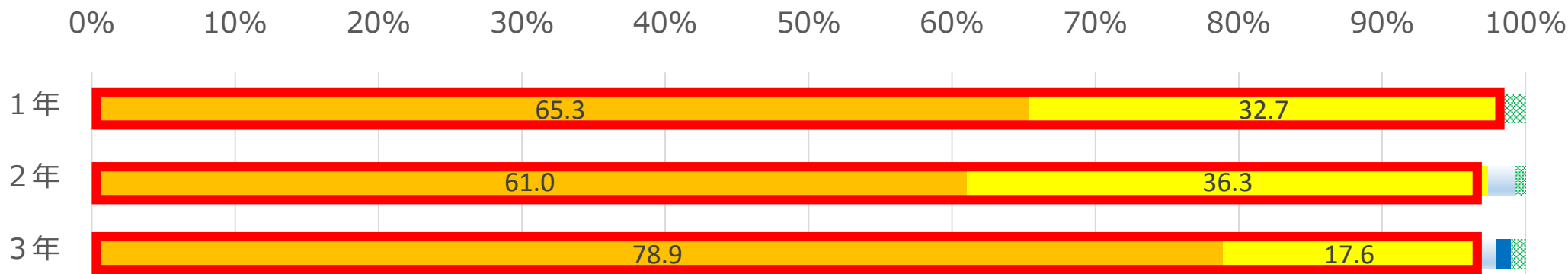


# 授業の理解度（学年別）

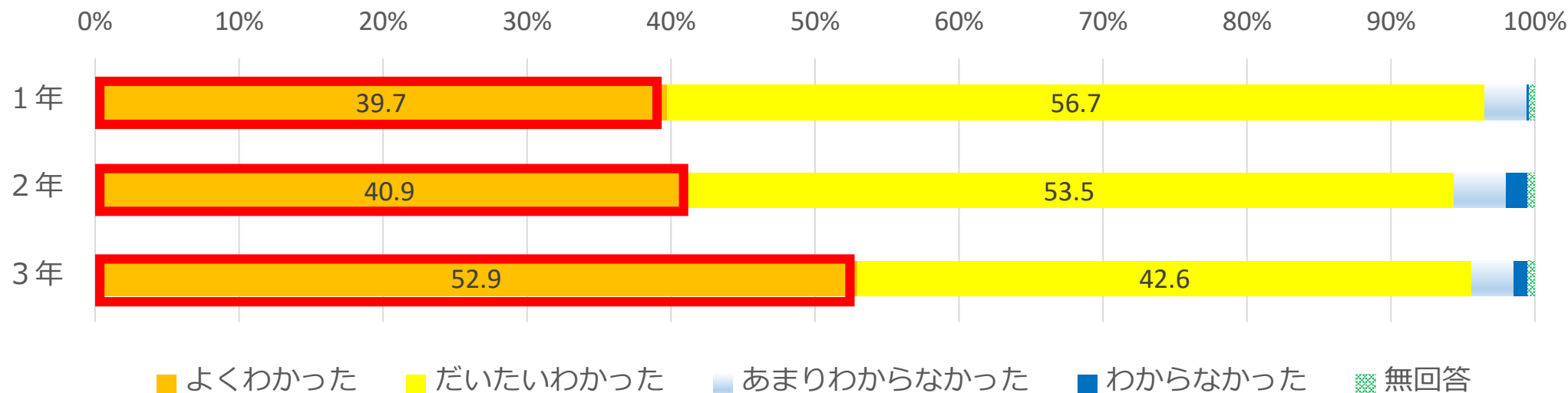
## 生徒アンケート結果

- どの学年でも95%以上の生徒が授業を理解できたと感じている。
- 「よくわかった」が比較的低い「心から出るSOSのサイン」については、学年が上がると「よく理解できた」の割合が高い。

### ◆ 授業全体の理解度



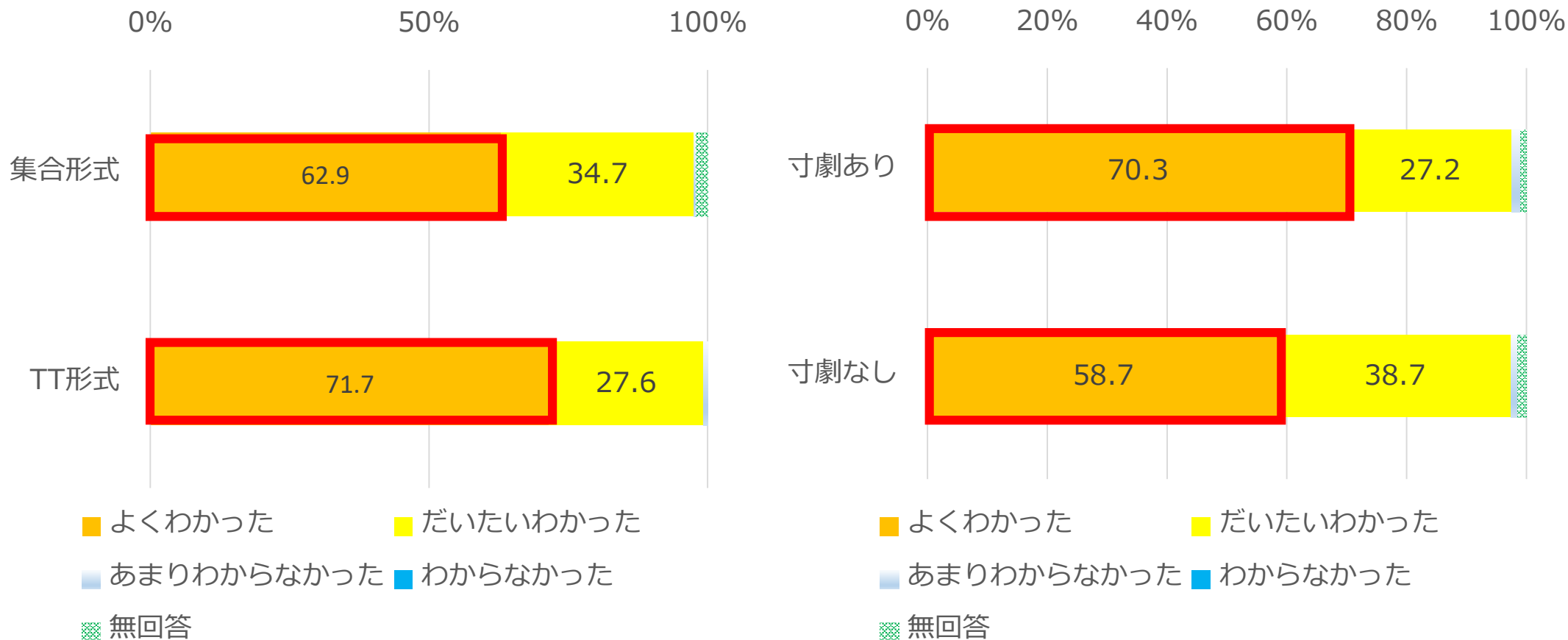
### ◆ 心から出るSOSのサインの理解度



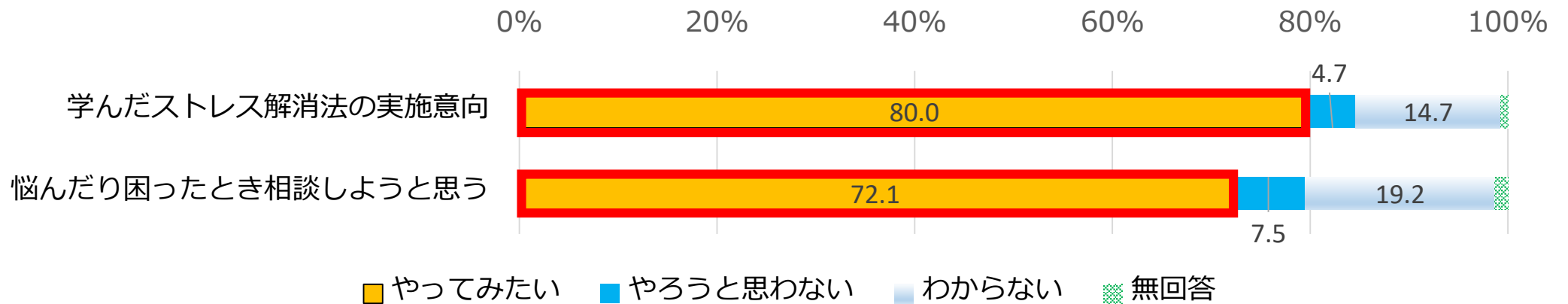
# 授業の理解度（授業形態別）

## 生徒アンケート結果

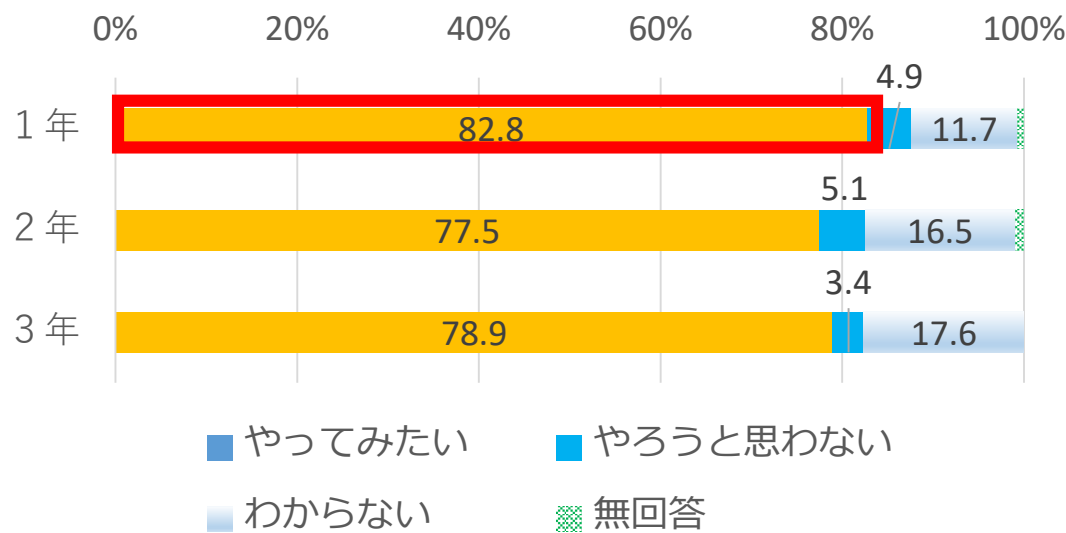
- TT形式の方が、集合形式より生徒の理解度が高い。  
・・・「よくわかった」の割合が、約9ポイント高い。（1年生で比較）
- 寸劇を取り入れた方が、生徒の理解度が高い。  
・・・「よくわかった」の割合が、約12ポイント高い。（1、2年生で比較）



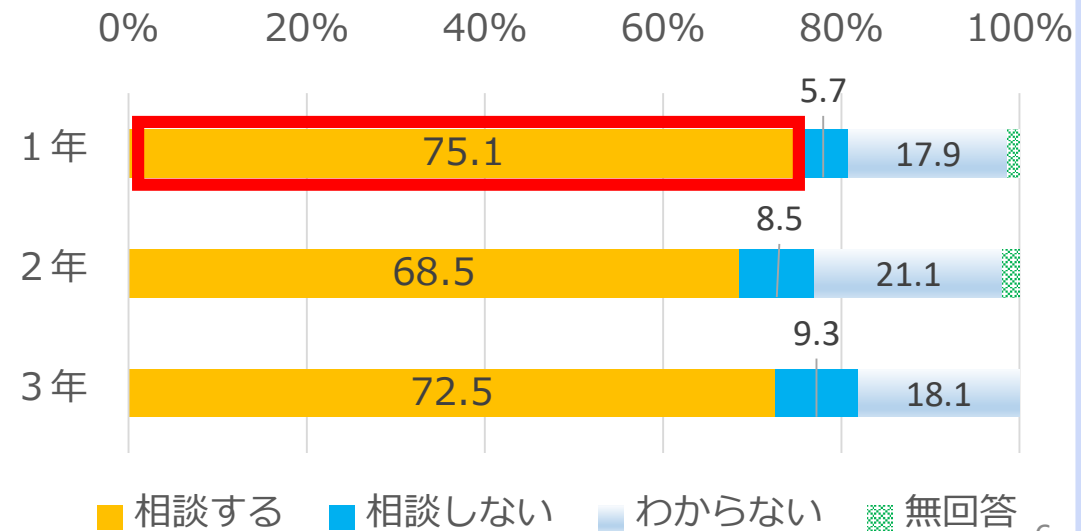
- 70～80%の生徒が、授業で学んだことを実践しようと考えている。
- 1年生は、学びを実践しようという割合がやや高い。



### ◆ ストレス解消法の実施意向

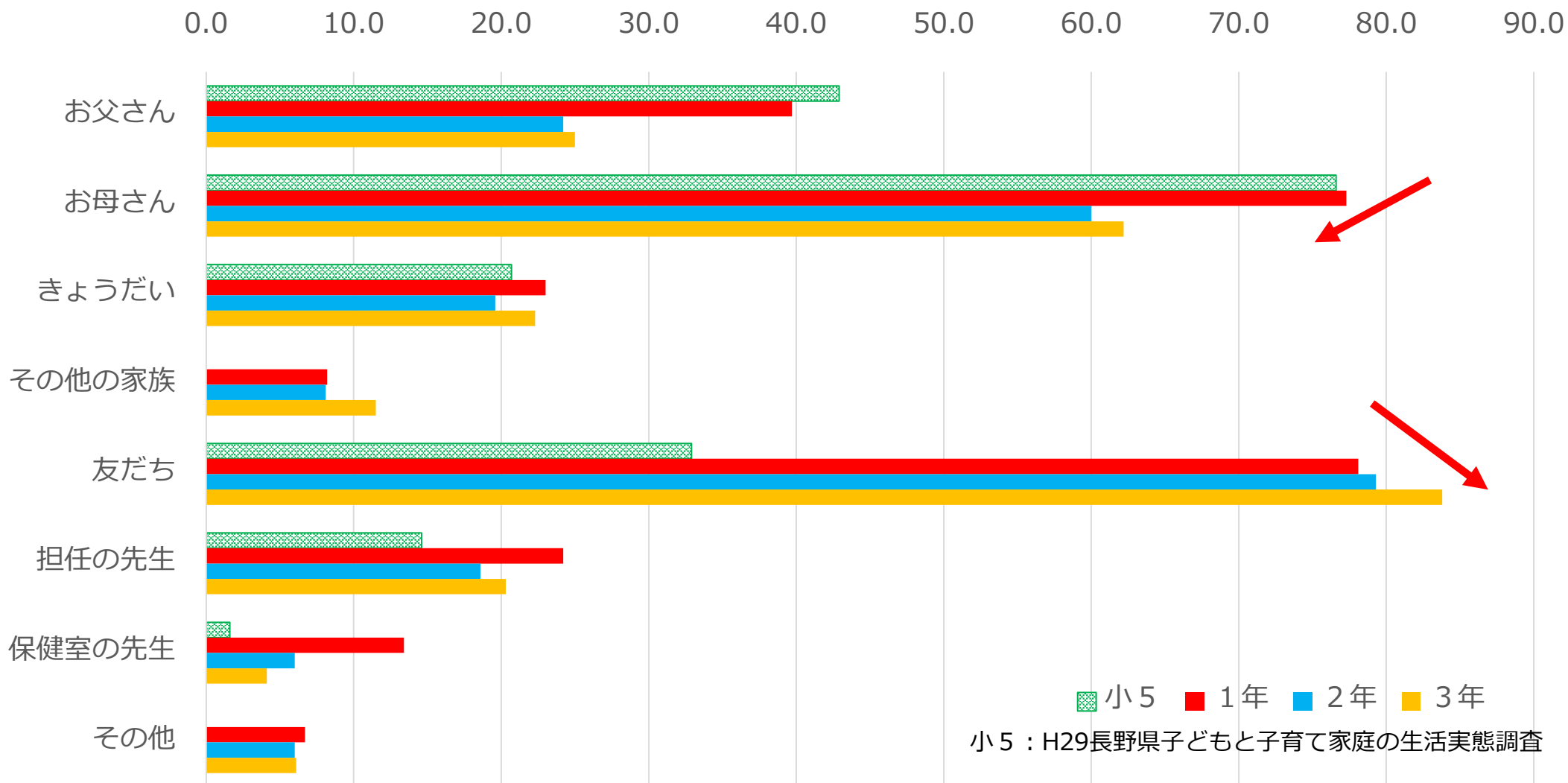


### ◆ 悩み等の相談の意向



- 学年が上がると相談相手として、「親」の割合が下り、「友だち」の割合が高くなる。

・・・「友だち」が発するSOSの受け止め方の教育の必要性

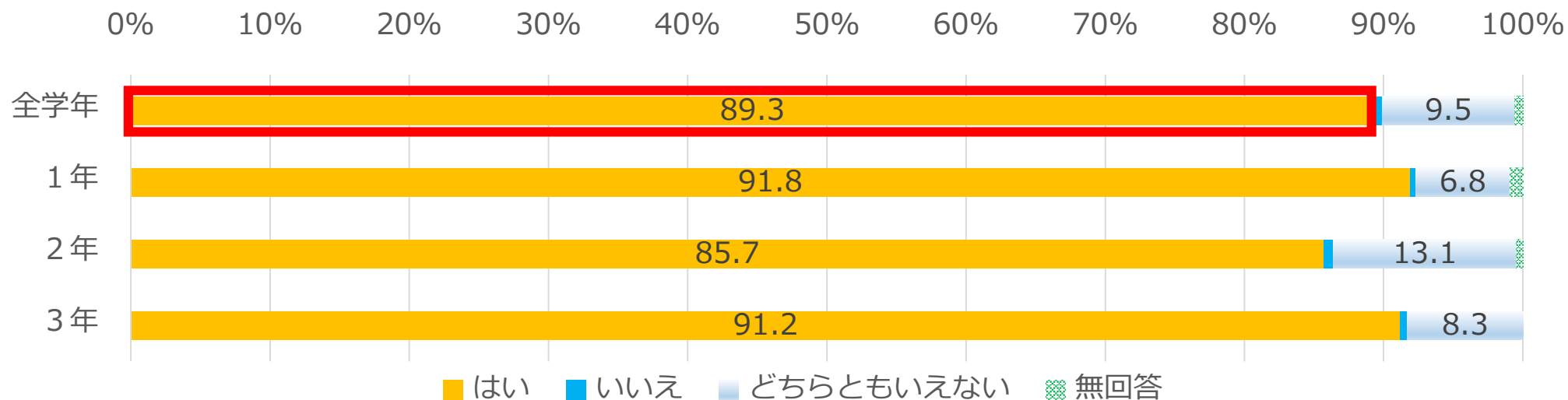


小5：H29長野県子どもと子育て家庭の生活実態調査

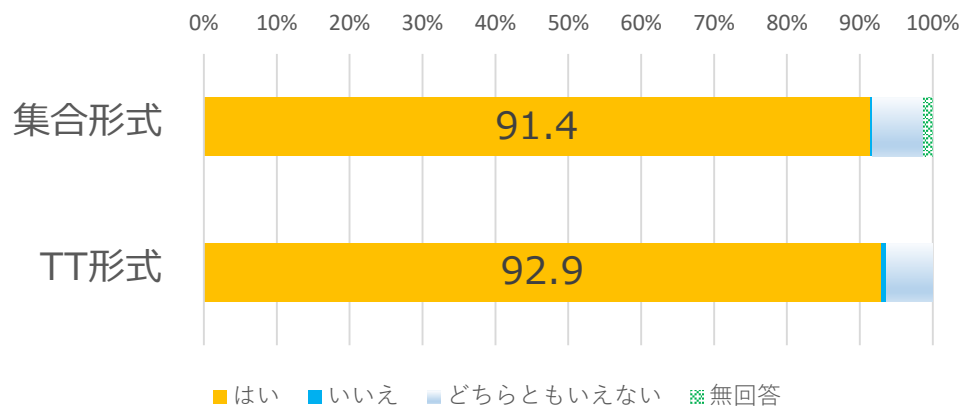
# 授業の役立ち度

## 生徒アンケート結果

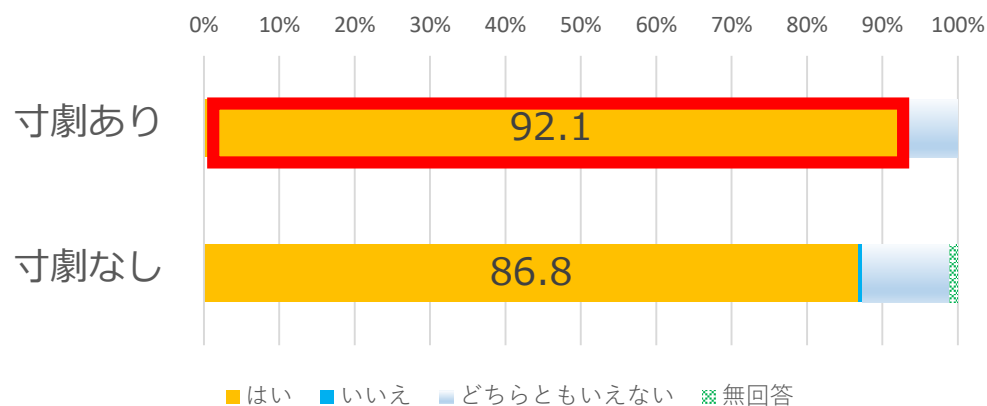
- 生徒の約90%が、この授業が「役に立つ」と感じている。
- 寸劇がある授業の方が、「役に立つ」と感じる生徒の割合が約5ポイント高い。



### ◆ 授業方式別（1年生）



### ◆ 寸劇の有無（1～2年生）





# 1 自らを大切な存在として認識

### ◆ 限られた時間でいかに伝えるか

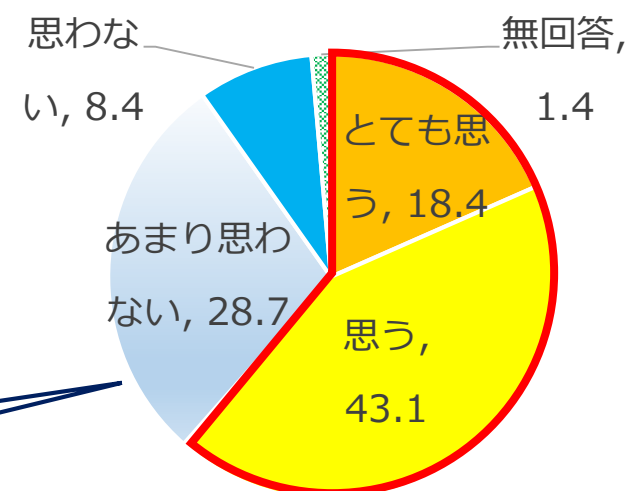
- 1時間の授業では難しい。日々の積み重ねが大切。
- 生徒の心に届くよう伝えることは難しい。  
→ もっと自分のことをよく知ろうというメッセージ

### ◆ 他者との関わりから自己肯定感を高める

- 他者との関わりにおける自分の存在の観点を加えるべきではないか
- 他者からの温かい評価が告げられると効果てきではないか。

### ◆ その他

- 直接的な問いかけが必要ではないか。
- 具体例を示すとよいのではないか。



約4割の生徒は自分を「価値がある人間」と思っていない

自分は価値がある人間だと思う (中2)  
(H29長野県子どもと子育て家庭の生活実態調査)

### ◆ そもそもストレスとは

- 具体的にストレスをイメージできるよう工夫が必要ではないか。
  - ・・・ 4つのストレッサー
    - 物理的ストレッサー（寒暖、騒音、悪臭など）
    - 化学的ストレッサー（酸素欠乏、栄養不足など）
    - 生物学的ストレッサー（病原菌の侵入など）
    - 社会・心理的ストレッサー（学校や家庭の人間関係から生じる不安など）

### ◆ よいストレスと悪いストレス

- 適度なストレスは成長に必要であることが、伝わりにくいのではないか。
  - ・・・ ほどよい勉強やスポーツ
    - 心地よい緊張感、身体的な疲労感

#### ◆ 様々なセルフケアの方法を知る

- グループワークの機会を設けると幅が広がるのではないかと。
- 生徒が実感できる対処法を取り入れる必要があるのではないかと。  
(深呼吸は実感しにくい生徒もいる。)

#### ◆ セルフケアを学校生活に取り入れる

- 日常の学校生活の中で、先生が取り入れると良いのではないかと。

ストレス解消法は、人によって合うもの、合わないものがある。  
多くの選択肢を示して、自分に合う方法を見つけてもらおう。

## 4 信頼できる第三者に助けを求める

### モデル校等アンケート結果

#### ◆ 価値観を押しつけない

- 誰にも相談したくない生徒もいる。価値観の押しつけにならない配慮が必要ではないか。

大人からの働きかけ等について言及

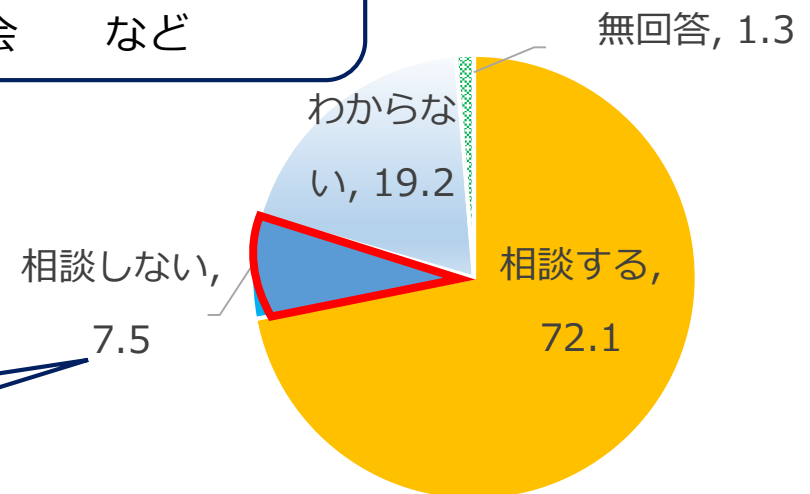
#### ◆ 信頼できる大人の存在

- 県民一人ひとりが信頼できる大人を目指したい。

- ・ ゲートキーパー研修（市町村等）
- ・ 学級PTA（保護者向けリーフレット活用）
- ・ PTA指導者研修会
- ・ 子ども支援の関係者を対象の学習会 など

- 信頼できる第三者の存在をより多く紹介すべきではないか。

何らかの理由で、相談したくないと感じている生徒が7.5%存在する。



悩んだり困ったとき相談しようと思う

## 5 友だちの悩みを真剣に受け止める

### モデル校等アンケート結果

#### ◆ ロールプレイの導入

- ロールプレイ（寸劇）を取り入れてはどうか。

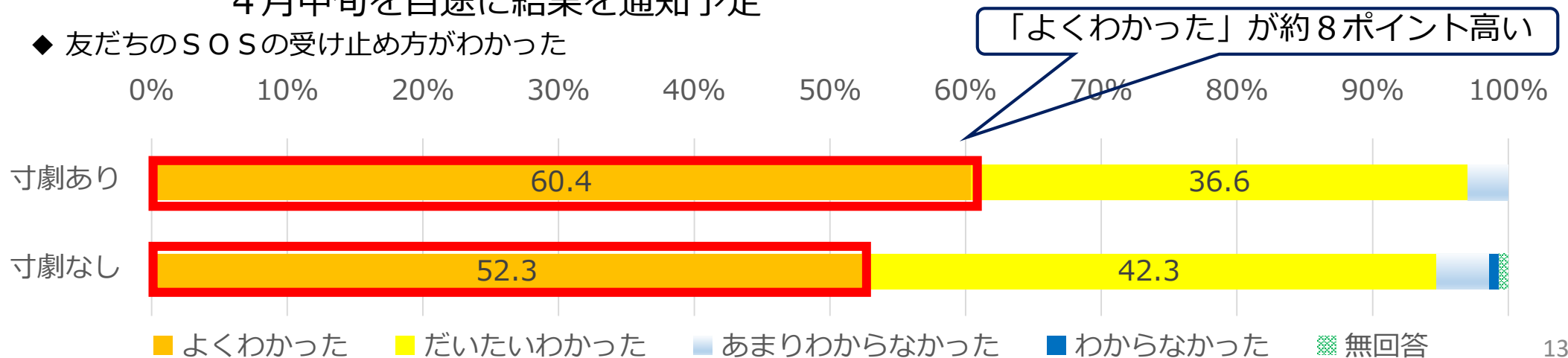
#### ◆ その他

- 中学生に傾聴や声かけは難しい。大人につなぐことを伝えた方がよいのではないか。

- 具体的なイメージが湧いたか、検証する必要があるのではないか。

→ モデル校の生徒を対象に、受講3か月後のアンケートを実施  
4月中旬を目途に結果を通知予定

#### ◆ 友だちのSOSの受け止め方がわかった



### ◆ ワークシート

- 隣ののぞき見できる環境では、本心を記入できないのではないか
- だまし絵だけでなく、言葉の意味のとり違いを加えてはどうか。

例1 「かっこよくない？」と聞いたつもりが・・・  
→ 「？」が抜けてしまって「かっこよくない」（=かっこ悪い）と伝わったケース

例2 「私も行きたい」とメッセージを送ってきた友人に「何（なに）で来るの？」と、  
交通手段を訊ねたつもりが・・・  
→ 「なんで（あなたが）来るの？」と伝わってしまったケース

### ◆ アンケート

- 相談したいことがあると回答した生徒へのアフターフォロー体制を整備しておく必要があるのではないか。  
・・・26.9%の生徒が相談したいことがある
- 「どちらともいえない」という回答の背景を明らかにすることが授業改善につながるのではないか。  
・・・相談するかわからない19.2%、授業が役立ったかどちらともいえない9.5%

### ◆ モデル校等の意見（授業内容の工夫・継続的な取組）

- 内容を絞り込んだ方がよいのではないか。
- 映像や音声の活用など、興味や関心をひく工夫が必要ではないか。 例：自殺対策テーマソング ワカバ「あかり」
- 学級単位で実施し、グループワークを取り入れるべきではないか。
- ネガティブに捉える生徒への伝え方に配慮が必要ではないか。
- 目的に応じて、生徒の配列を工夫する必要があるのではないか。  
(自分で考える or グループで情報共有する)
- 外部講師の講座 1 回で終わりにせず、学校が継続して取り組むことが必要

### ◆ 専門家の意見

- 頭で理解したことと、実践できることは違う。実践できる力を育むことが大切。
- 講師と生徒との日常的な関わりの有無で、メリットとデメリットがある。その点でT Tはよい方法。生徒参加型の授業が望ましい。様々な先生が関わることで、先生自身も知識を得られる。
- 子どものSOSを受止める大人的能力向上や大人からのアプローチを強化すべき。
- SOSを発信できない子どもはダメな子としない配慮が必要。

### (疑問)

- 信頼できる大人がいなくて、相談機関に連絡するのも困難な人はどうしたらいいんだ。
  - 人に相談したくても、できない相談があるから難しい。
  - 授業を聞いたとしても、一人で抱え込む人は絶対にいる。「絶対に言わないで」と言われたのに、大人につなぐのは気が進まない。大人に言ったら、もっと一人で悩みこんでしま
- う。
- 放っておいてもらいたいのに、いろいろ言われたりする場合、どうするのか気になった。
  - 実際にできるか、気づけるのか不安に思った。

### (授業内容・方法に対する批判)

- 何を一番伝えたいのかが、よく分からない。
- 猫はいらないと思った。
- ワークシートの書き方が分かりにくかった。  
(記入式で実施した学校の生徒)

懐疑的な意見にも  
配慮を

### (理解できない)

- 自分には、何を言っているのかよく分からない。
- ストレスって見えないから、分からないなー。そもそもストレスって何ですか。

### (授業の効果が感じられない感想)

- 誰にも相談できないと思った。自分は一人なのかなと思った。
- 話を聞いてもらうだけで少し楽になることが分かった。でも相談したいとは、あまり思わない。